

推進校は、動物の適正な飼育や動物愛護の心を培う体験活動の実施に向け、研修会を行っています。その際、学校担当獣医師から、動物飼育に関わる専門的な内容について指導を受けています。

★★

### 実践事例

#### 渋谷区立幡代小学校

#### 【実践の概要】

学校担当獣医師を講師として、教職員を対象に動物飼育に関する研修会を実施しました。研修では、学校で飼育しているうさぎの健康状態の確認方法や、日常的な観察の視点、飼育環境を清潔に保つための留意点について、専門的な立場から説明を受けました。



研修会の様子

また、動物の体調変化に早期に気付くための具体的なポイントや、季節に応じた飼育環境の工夫について助言を受け、教職員が共通理解をもって動物飼育に関わることの重要性を確認しました。

#### 【学校担当獣医師や保護者等との連携】

昨年度から継続する2年目の取組であり、学校担当獣医師が本校の飼育動物の状況や飼育環境を十分に把握してくださっていることで、安心して飼育に関わることができます。本校の実情を踏まえ、日常の飼育活動や授業における動物との関わりについて、教職員が留意すべき点をご助言いただき、校内で動物飼育を支える体制づくりを改めて進める契機となりました。

#### 【教員の反応】

教職員からは、これまで感覚的に行っていた飼育や観察について、専門的な根拠をもって理解できたという声が聞かれました。

また、飼育動物の変化に気付く視点が明確になり、日常の飼育活動や飼育委員会への指導、授業での動物との関わりに自信をもって臨めるようになったという反応が見られました。研修を通して、教職員間で共通認識をもつことができ、校内で安全かつ適切な動物飼育を進めていく意識が高まりました。



## 実践事例

### 中野区立上鷺宮小学校

#### 【実践の概要】

- 学校担当獣医師が、全職員対象にモルモットの飼育についての研修会を実施しました。
- モルモットのかかる病気や食べ物などについて、御指導をしていただきました。
- モルモットの飼育方法について、抱き方や爪の切り方などの実技研修をしていただきました。



学校担当獣医師による指導

#### 【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 研修では、飼育担当教員や第2学年の児童からの質問に答えていただいたり、長期休業中に注意すべきことについて御助言いただいたりしました。
- 研修を通じて、飼育委員会担当や、担当学年の担任は飼育状況が適切かどうかを確認し、病気の予防のために環境を整備することができました。

#### 【教員の反応】

- 学校担当獣医師から御指導を受け、モルモットの生態に関する知識が身に付きました。
- 講義だけでなく、抱っここの仕方や爪の切り方などの実技的な内容についても御指導いただき、モルモットの飼育について児童からの質問に答えられる教員が増えました。



## 実践事例

### 八王子市立宇津木台小学校

#### 【実践の概要】

- 夏季休業中に学校担当獣医師をお招きして、ウサギとモルモットの特徴や飼育方法について学ぶ、教員研修会を行いました。
- 生態の特徴や暑さや寒さといった飼育環境について教えていただくことで、適切な環境での飼育方法を選択することができました。



獣医師による教員研修会の様子

#### 【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 暑いときや寒いときにウサギとモルモットが快適に過ごすにはどんなことに気を付けたらよいか、獣医師に教えていただきました。実際のゲージ環境を見てもらい、具体的な指導をいただくことができました。



夏や冬はゲージに入れて室内で飼育

#### 【教員の反応】

- 学校担当獣医師から御指導をいただき、ウサギとモルモットの生態や飼育方法等の基本的な知識を得ることができました。
- ウサギとモルモットの生態を知ることで、飼育するときに、どのようなことに気を付ければよいか、具体的に知ることができました。



## 実践事例

### 青梅市立第七小学校

#### 【実践の概要】

7月に教職員・保護者・地域対象の研修会を実施

研修会の内容

- ・ウサギの世話の仕方（抱き方、えさの種類と量）
- ・ウサギ小屋内の衛生環境について
- ・猛暑期間や厳冬期間のウサギの飼育体制等について
- ・保護者との連携について

#### 【学校担当獣医師や保護者等との連携】

学校担当獣医師との打合せの時に、本校のウサギの飼育小屋の現状などを見ていただき、主に以下の三つの課題を指摘いただきました。

- 1 ウサギ小屋内の衛生環境について
- 2 猛暑期間や厳冬期間のウサギの飼育体制について
- 3 ウサギと児童との関わり方について

上記三つの課題について、学校担当獣医師、視察に来られた東京都教育委員会の担当指導主事及び青梅市教育委員会の指導主事と相談をしながら、予算との兼ね合いも考慮しつつ、できることを模索しました。

その中で、特に「3 ウサギと児童との関わり方について」について、学校担当獣医師との授業の前後1週間程度、校舎内にてウサギとの「ふれあいスペース」を設け、全校児童がウサギと触れ合える機会を多く設けることができました。

#### 【教員の反応】

- ・ウサギのホームステイの実施は、保護者にも喜ばれ、よい試みだった。今後、誰が中心となってウサギとの交流活動を推進していくか。どのように、年間の計画を立てていくのかが課題だと感じました。
- ・衛生面や安全面を考え、ウサギ小屋床面を、コンクリートにすることについては、予算や排水の問題もあり、断念したが、土の入れ替えを行うことで環境を改善することができました。



## 実践事例

### 小平市立小平第九小学校

#### 【実践の概要】

- 学校担当獣医師を招いて教員向けの研修を行いました。
- 学習指導要領・情操教育との関連を踏まえ、豊かな感性を育むために、長期飼育を通じた児童の学びについて、講義をしていただきました。
- 特に、指導に当たっては「飼育動物をかわいがるだけではなく、共に生きていくために相手のことをよく知ることが大事」ということを学びました。



獣医師による研修会の様子

#### 【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 学校担当獣医師の意向を踏まえ、全体研修に向けて事前に教員にアンケート調査を行い、研修テーマを決定しました。研修では、学校担当獣医師との質疑応答も行いました。
- 地域の飼育への参加のための実態調査を3学期に行いました。
- 学校担当獣医師と問題発生時の連携について打合せを行いました。

#### 【教員の反応】

- 以下の意見がありました。
  - ・飼育環境の整備が動物のためには大切であることを学びました。
  - ・飼育の責任の重さと大変さを改めて感じました。
  - ・飼育動物の死亡の際にも児童の学びにつながるように価値付けをする姿勢を学ぶことができました。
  - ・飼育する際のマダニや感染症のリスクについて知ることができました。